

<p>2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>作物栽培の基本と実践力を身につけ、高収益栽培法について理解するとともにその栽培技術が習得でき、生産と流通、消費についての理解が深まることで、科学的に物事を思考し判断する能力と実行・実践する技術力が備わること目標としている。授業の中で、その基礎を学び、自らが考え行動し応用力を培うことが将来へつながる道である。そのためには何事に対しても「何故」という疑問を持ち、問題点を探り当て、解決方法を実行に移すことが必要である。</p> <p>農業基礎実習では、作物を観察する目を磨き、作物を育てることの喜びと失敗した苦勞を体験し、収穫の際の満足感をおし農業のすばらしさを伝えていく方針で進めている。</p> <p>座学では、実践に必要な知識・技術につて系統的に習得し、自ら考えることができる能力が身につくよう努めている。また、野菜実習では、北海道での最新の野菜栽培技術とおして野菜栽培の楽しさを知るとともに、実践的野菜栽培管理技術について学ぶとともに、最新技術についても体得すること目標としている。学生が、初めて自分で種をまき、作物にふれ、収穫の喜びを体験し、レポート作成とおして成長していると確信している。</p>										
<p>3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>講義については、興味がわくように配布プリントや板書に工夫を凝らし、ppt 等も使用した。また、科目によっては小テストを実施し、知識習得の再確認を行っている。野菜実習の班分けについても興味のある作物を中心に学生に分担させ、積極的に作業できるように工夫し、市場視察や試験場視察などを取り入れている。</p> <p>また、北海道では栽培の少ない作物や養液栽培などをわかりやすく取り入れて、さらに興味を引く講義・実習にしてきているが、より理解を深めるよう努めたい。</p>										
<p>4 教科書、教材の作成状況</p> <p>(記述式：300字以内)</p>	<p>教材については、教科書の使用及びプリントを作成し、野菜実習では実習結果をまとめ担当学生の発表方式をとり目的、内容、結果の周知を行った。</p>										
<p>5 学生の指導（課外活動・厚生補導等）</p> <p>(主要10件以内)</p>	<table border="1"> <tr> <td>果樹研究会顧問</td> <td>深川果樹園視察、講習会への参加</td> </tr> <tr> <td>海外研修希望者支援</td> <td>帰国者報告会、各農業交流協会説明会の開催</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	果樹研究会顧問	深川果樹園視察、講習会への参加	海外研修希望者支援	帰国者報告会、各農業交流協会説明会の開催						
果樹研究会顧問	深川果樹園視察、講習会への参加										
海外研修希望者支援	帰国者報告会、各農業交流協会説明会の開催										
<p>6 その他</p> <p>(主要5件以内)</p>	<p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>										
<p>研 究 業 績</p>											
<p>1 研究分野・活動</p> <p>(記述式：350字以内)</p>	<p>・パブリカの高設養液栽培（楽々ベンチ）における栽培法の検討をおこない、今までの整枝方法の改善が示唆された。サツマイモの7月植えは深川市に於いて収量が期待できないことが明確になった。ラッカセイの深川市における収穫適期を明らかにし、病害についての被害が明らかになった。さつまいも、ラッカセイの北海道での栽培拡大に努めていく。アスパラガス露地栽培の品種の検討をおこない適品種が明らかになった。キノア栽培の可能性に関する研究とおして北海道における栽培方法の確立に一步近づいた。北海道育種メロンの安定生産技術の検討とおして学生にメロンの魅力を伝えていく。北空知地域に適した種子食用カボチャ収穫適期はある程度幅が考えられた。四季成り性イチゴの適切なよう面積を明らかにし、収量と養分吸収量について検討中である。</p>										
<p>2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む)</p> <p>(記述式：350字以内)</p>	<p>・パブリカの整枝法の検討。</p> <p>・サツマイモの品質向上栽培法並びに北海道にあった品種の検討及び自然交配種の作出。</p> <p>・キノアの安定生産技術の確立。</p> <p>・ラッカセイの安定生産技術の開発検討</p> <p>・四季成りイチゴ養液栽培における葉面積と収量についての検討。</p> <p>・深川市における種子食用カボチャの安定生産技術の検討</p>										
<p>3 研究助成等 (主要5件程度)</p>	<p>(1) 文部科学省科学研究費</p> <p>・基礎研究 (B) 食料循環研究「安心・多収・良食味を実現するサツマイモの地域適応型エンドファイト利用技術の開発」</p> <p>・挑戦的萌芽研究環境調和型作物生産「近傍植物への傷害刺激によるダイズ根粒着生数増加要因の解明と応用」</p> <p>(2) 学内</p> <p> </p> <p>(3) 学外</p> <p>・受託研究「キノアの栽培についての研究」</p>										

4 資格・特許等 (主要 3 件以内)	北海道農業改良普及員資格				
	専門技術員資格 (野菜及びいも類)				
	技術士 (農業部門)				
著書、学術論文、作品等の名称 (主要 15 件以内)	単著、 共著 の別	発行又は発表の 年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要 約	
光照射技術によるパプリカの増収効果	共	2015 年 3 月	北海道園芸研究談話会報 48号		
道北におけるラッカセイの適品種	共	2015 年 3 月	北海道園芸研究談話会報 48号		
露地栽培におけるアスパラガス新品種の 収量性評価および培土が収量性に及ぼす 影響	共	2016 年 3 月	北海道園芸研究談話会報 49号		
低温がサツマイモの塊根に与える影響	共	2017 年 3 月	北海道園芸研究談話会報 50号		
サツマイモ生育期の茎葉処理が収量に与 える影響	共	2017 年 3 月	北海道園芸研究談話会報 50号		
サツマイモの直立植えの植込み節数が収 量に与える影響	共	2017 年 3 月	北海道園芸研究談話会報 50号		
深川市におけるラッカセイの品種比較	共	2017 年 3 月	北海道園芸研究談話会報 50号		
北海道におけるキノア栽培の可能性	共	2017 年 3 月	北海道園芸研究談話会報 50号		
研究業績 (過去 3 力年分)				国際的活動 の有無	社会的活動の 有無
著作数	論文数	学会等 発表数	その他		
3	1 2	1 2		有	有
学 内 運 営 業 績					
1 役職、各種委員会等 (主要 10 件程度)	・学生・地域国際交流委員会 委員長		学生指導一般、深川国際交流協会都の連携、拓大海外研修への学生派遣支援		
学 外 活 動 業 績					
1 本学以外の機関 (公的 機関・民間団体等) を 通しての活動 (主要 10 件程度)	北空知農業振興談話会		地域農業振興に対する助言		
	NPO 北海道インターナショナル協議会 理事長		JICA 青年研修受け入れ、JICA 各種事業への参画		
	北海道養液栽培研究会 運営委員		現地研修会、冬季講座の開催		
	北海道さつまいも懇話会 会長		現地研修会、情報交換会の開催		
	北海道試験会議 外部有識者		試験研究成績、設計の検討		
	北空知農業後継者育成支援協議会		総会、北育ち元気塾の開催		
2 学会・学術団体等の活 動 (主要 10 件程度)	農業食料工学会				
	北海道農業普及学会				
	園芸学会				
	日本技術士会北海道支部				
	北海道果樹懇話会				
	北海道園芸研究談話会				